

# 学校通信 強い網

2017年2月/3月号

新版 第84号

編集

駿台甲府高等学校

駿台甲府中学校

駿台甲府小学校

## 四十周年に向けて

中学・高校 校長 八田 政久

### 卒業に添えて

卒業を迎えられる児童生徒の皆さん、また、保護者の皆様、心よりお喜び申し上げます。

本年度より小中学校においては卒業証書授与式、高等学校においては卒業式とさせていただきます。駿台甲府での一貫教育をさらに充実し、児童生徒の皆さんに、より良質かつ継続的な教育を行っていく決意の表れです。学園関係者の意図をくみ取って頂けたら幸いです。本校教育の理念であります「愛情教育」のもと、建学の精神であります「チャレンジングスピリット」を身に付けてもらうために、児童生徒一人一人と向き合い、時には厳しく、時には優しく、共に歩んできました。今日までの経験を次のステップに生かしてもらいたいと切に願っています。一日の積み重ねを大切にして下さい。ある卒業生が講演会で話してくれた「過去は変えられない。でも、未来は自分の意志とチャレンジングスピリットで変えることが出来る。」という言葉を贈りたいと思います。

## 新しい学び

世界の多くの地域で様々な変革を迎えている中、日本においても以前から話題となっている高大接続改革が動き出します。2017年には学習指導要領改訂が告知され、高等学校基礎学力テスト（仮称）のプレテストが開始されます。2018年には大学入学希望者学力評価テスト（仮称）のプレテストを開始する方向で調整が進んでいます。2019年の基礎学力テスト実施を経て、東京でオリピックが開催される2020年には学習指導要領改訂が小学校で全面实施され、大学入試においては従来のセンター試験が廃止され、学力評価テストが実施されます。学習指導要領の改訂は、2021年から中学校で、2022年から高等学校で全面实施となります。

学びの地図である学習指導要領の改訂では、2030年以降の社会に対応できる力を身に付けさせることが主眼となっています。社会生活において、情報化やグローバル化が進み、人工知能（AI）の進化により現在の仕事の50%近くが自動化され、さらには現在の小学生は60%以上が現在では存在しない仕事に就くであろう、と言われています。日本においては、人口減少が進むと共に、75歳以上の後期高齢者の割合

が60%に達すると予測されます。改訂の答申では、「与えられた目的の中で処理を行うAIに対し、人間は感性を豊かに働かせながらどのような未来を作っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくのかを自ら考えることが出来る」と強調し、そのために必要な力を育んでいくのが人間の学習だと訴えています。答えのない問題に答えを出していく姿勢を身に付けさせるための教育が求められています。

小学校においては、3、4年生に外国語活動が導入され「聞くこと」「話すこと」に重点が置かれ、5年生から教科としての外国語が始まり中学へと繋がります。総授業時間数は中学年以上で年間70時間の増となります。中学校においては、大きな変化はありませんが、道徳が特別の教科として扱われます。年間の総授業時間数は1015時間で現行と変わりません。

高等学校では、地理歴史科で日本と世界の近現代史を学ぶ「歴史総合」と現代の地理的な諸課題を学ぶ「地理総合」が加わり、公民科においても現代の社会的課題の解決に向けた考察に取り組む「公共」が設けられました。国語科においては、実社会で必要な国語能力を育成する「現代の国語」と伝統的な言語文化への理解を深める「言語文化」が設置されます。数学科にまたがる「理数探究」で課題解決能力の充実を目指す方針も出されています。

本校では、学校通信82号でご案内したように、2017年度高校入学生から「新しいコース・フィールド制」を実施し

ます。今までの学習内容に新たな探求型の学びを加えていきます。社会で求められていく力を時間をかけながら着実に定着していくように、学園全体で取り組んでいきます。今後もご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

## 中学棟建設について

昨年4月に新聞でも取り上げられました中学校移転計画が進んでおります。今現在、文化財本調査が予定通り行われております。出土品の詳細などは本校地歴科から6ページで紹介しておりますので一読ください。調査終了予定が8月下旬となっております。その後、様々な申請の後に、本年10月下旬を目標に着工できるよう準備を進めております。中高同一キャンパス開校を2019年4月に予定しております。中高のクラブハウスが本年2月末に完成したことを皮切りに、中学との共用を視野に入れ、図書館をはじめとした改修工事を進めていきます。工事期間中、様々な面においてご不便をおかけすると思いますが、ご協力の程よろしくお願いたします。

## シンボルマークについて

HP等で公募しましたシンボルマークに、全国各地から数百に及ぶ作品が寄せられました。厳正な審議を行い、現在、詳細の詰めに入っています。次の学校通信では公表させていただきます。上記以外にも、小中高一体となった行事や中高合同行事なども進行中です。詳細が決まり次第、順次ご報告いたします。

特集 卒業

卒業する皆さんへ

高校 普通科 3学年主任 嶋津 由希

今ふと目を閉じれば、35期生の皆さんが入学してきた日の光景が、まるで昨日のこのように鮮明にまぶたに浮かんできます。あの日、私は皆さんを前に、「これからどのような3年間を過ごすのだろう」「どのような3年後を迎えるのだろう」などと思いを馳せていました。そして、いよいよ「その日」を迎えます。

夢を追いかけている間は青春、自分もまだまだ若いぞ、などと思いつながら、一方で若い頃とは少しばかり変わってしまった自分(特に体形?)を認めたくないという思いを抱きながら、その時々で伝えたいメッセージを、学年集会や学年通信『大夢』を通じて発信してきました。伝えたいことは色々あるようで、実はそれほど多いわけではありませんでした。「今、大切なこと」について一人一人に考えてもらうために、心に響くような声を上げるのみで済ました。私にとって、皆さんの成長した姿を夢見る毎日はとても充実した日々となりました。皆さんが駿高を巣立って行く時のたくましい姿を思い描きながらの晩酌(発泡酒)が格別な瞬間でした。私はこれまでいくつかの学校で教壇に立ちましたが、それぞれの国や地域に文化があるように、学校や学年によっても独特の色があるように思います。駿台甲府高校の35期生を見て「努力は無限である」と強く感じました。駿台

甲府高校には凄く努力をする生徒たちがいます。朝、とても早くから勉強している生徒たちがいます。とても早くから部活に励む生徒たちがいます。駿高祭の時期などは、ものすごく早い時間から活動をしている生徒たちが大勢います。それはちよつとした早起きなどとは違う、強い思いと意志の力がみなぎった、まさに努力する人の姿です。また、授業に対して、凄く努力してのぞむ生徒たちがいます。授業の前に自分の予習を見てほしいという生徒たちがいます。授業の後に自分の取り組みんだノートを見てほしいという生徒たちがいます。与えられた課題とは別に、さらに課題がほしいという生徒たちがいます。そして彼ら、彼女らは、自分の無限の可能性を信じて疑わない、もの凄くいい眼をしています。駿台甲府高校35期生の色、それはこのような生徒たちが描く色彩であるように感じます。

ところで私の祖父母は農業を営んでいました。毎日毎年、額に汗して田畑で働いていた姿をよく覚えています。毎年秋季になると、稲穂は黄金色のこうべを垂れるのでした。あの稲穂の黄金色は、まさに35期生の色でもあるように感じます。努力を惜しまず重ねた日々により彩られた3年間は、皆さんにとってかけがえのない青春となったはずです。

私が今でもあの稲穂を鮮明に覚えているように、皆さんも駿高で過ごしたこの3年間を忘れないでください。35期生、これで終礼とします。

強固な意志で

美術デザイン科 3年担任 高橋 典裕

三年生の諸君、卒業おめでとう。今日まで、美術デザイン科での学習、作品制作、生徒会活動、各種イベントにおいて一生懸命頑張ってきましたね。皆さんの、気持ちの入った、日々はしっかりと目に焼き付けていていきますよ。

さあ、明日からの人生はみんなさんの手で、一つ一つ、創造していかねばなりません。大学生、専門学校生、社会人と各自の活躍のステージは様々ですが、これからの大いなる飛躍を心から祈念しています。



さて、皆さんが今後立ち向かっていく、人生では、周りの流れになんとかくついて行けばいい、なんてことはほとんどありません。こうしてみよう、ああしてみよう、と己で創っていくものです。そしてできれば世界の人類のため、日本の市民のため、近所の住民のため、みんなの家族親戚のため、友人や大切な人のため、いつも考えて、これまで以上に慎重に考えた上で行動

しましよう。そのために、皆さん自身が決めた分野において、とことんまでつきつめて勉強して、自身の能力をさらに、高めていってください。ここまで周囲から与えられてきた、本当に本当に多くの事に感謝して、今度は周囲の人々に還元できる若者に是非是非なつてください。大きく目を見開いて、周りを見て、くください、世界中で何が起きているかを、落ち着いて、真剣になつて探してみてください。自分の描いている人生に向かつて、納得がいくように、たとえばどんな逆境が待ち構えていたとしても、ひた向きに、一歩ずつ前進を続けていきましょう。そんな忍耐・努力ついても大切なことだと考えています。



また、皆さんが今後立ち向かっていく、人生では、周りの流れになんとかくついて行けばいい、なんてことはほとんどありません。こうしてみよう、ああしてみよう、と己で創っていくものです。そしてできれば世界の人類のため、日本の市民のため、近所の住民のため、みんなの家族親戚のため、友人や大切な人のため、いつも考えて、これまで以上に慎重に考えた上で行動

## 「よろしくお願ひします」

中学 3 学年主任 羽澤 健

「『学ぶ』ってことは『わかりません』『教えてください』『よろしくお願ひします』で構成されています。学習者にとっては、全部大切だけど、最後の『よろしくお願ひします』が結構大切だからね。これができる、人生、楽しく、豊かに生きていけるからね。」

私が学年主任となって初めて彼らに話した内容は「学ぶ」とは？ ということでした。その「学ぶ」とは単に「学習をする」ということだけを意味しません。広く自分の知らなかったことを習得していくこと全般を指して「学ぶ」という定義で話しました。

一つ目の「わかりません」とは、無知の知の自覚です。自分には知らないことがあるという自覚が「学び」を起動させます。二つ目の「教えてください」は、一で自覚した知らないことを誰から学ぶかを適正に選択する力です。つまりメンターを選ぶ力ということです。そして最後の「よろしくお願ひします」というのは、教わる相手、メンターを教える気にさせる姿勢です。所謂、礼儀の正しさです。そしてそれは相手から好かれること、愛されることでもあります。「一見『学ぶ』ということとはかけ離れた『よろしくお願ひします』という礼儀正しさ、相手に好かれる言葉、相手の懐に飛び込んで行く姿勢は、実は密接なつながりがあるのです。それを二十二期生には知ってもらいたくて、習得してもらいたくて三年間伝え続けてきました。

私の教育方針は、「生徒がいかに人生

を豊かで楽しく創造していくか。」ということに尽きます。彼らが豊かな人生を送るために大学進学が必要であれば、その夢の実現のために学力を向上させられるように精一杯力を注ぎますし、人生を楽しく過ごすためにコミュニケーション能力が必要であれば、コミュニケーション能力を向上させるメソッドを教授します。ただ、必ずそこに私なりのスパイスを加えます。そのスパイスが「よろしくお願ひします」であり、それは人に好かれる実践でもあるのです。

誰もが言いますが「人はひとりでは生きていけません。必ず周りの人たちに助けられて、支えられて生きています。」その周りの人、支えてくれる人により好かれていたら、より愛されていたら、それは人生豊かに楽しく過ごせること間違いなしです。そこで必要になってくるのが人に好かれる人間であることであり「よろしくお願ひします」を言える姿勢であると思うのです。

二十二期生には幸せになって欲しいです。豊かで楽しい人生を歩んでほしい。心底そう思います。大好きな、大好きな二十二期生だから。

彼らが社会に飛び出した時、周りに愛され、支えられて、自分の夢を爽やかに実現していく、そんな素敵な人間になっているように切に願っています。

卒業、おめでとうございます。素敵な人生を歩んでくれると嬉しいです。

最後に、大好きな二十二期生に出会わせてくれた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。「素敵な奇蹟」をいただきました。本当にありがとうございます。

## 駿小十期生の卒業

小学校 6 学年主任 田中 愛子

駿小開校から十年という節目に入学した彼らの六年間をふり返ると、変化と進化に挑み続けたものであったと今、改めて感じます。

十期生との出会いは、彼らが四年生の時、学年主任として関わることとなりました。その出会いの始業式で、パワフルな校歌斉唱に感激し、沢山褒めたことを覚えています。歌うことが好き、絵を描くことが好き、人間関係で悩んでも根本的に人が好き、皆で楽しむ事が好き、そんな学年でした。

人が伸びるか伸びないかを判断する基準のようなものはないけれど、長きにわたり高学年児童を受け持つ中で、伸びるための条件はあると確信しています。それは『好奇心』をもっているということ。好奇心は、行動のもととなる起爆剤であり、集中力を高める原動力ともなります。十期生は、この好奇心を高める取り組みに重点を置き、生活力・学力の向上を図ってきました。

その好奇心を育む取り組みの中でも、修学旅行を大きく変えたことが一番のチャレンジでした。これまでの奈良・名古屋から、北海道へ場所を移し、世界自然遺産である知床半島を目指しました。飛行機に乗ること、オホーツク海のクルージング、アイヌ民族とのふれ合い、大自然を肌で感じるトレッキング、北方領土を実際に目で見て確かめるなど、北海道の中でも手つかずの自然が残された秘境で本物を体験した

ことは、これまで見聞きしたことも、経験したこともない大きな感動を覚えたことは言うまでもありません。好奇心が刺激され、子ども達の生き方や価値観に大きな影響を与え、豊かなものになった手応えを感じる修学旅行となりました。また、駿小の歴史に残る改革を成し遂げたことが、彼らにとっての勲章になり、集団の自信にも繋がりました。

こうした新しいものを生み出し挑戦する姿勢は、日々の学習にも浸透させてきました。十期生が四年生から三年間ずっと継続してきた「漢字相撲」「計算力コンテスト」がその例です。与えられた学習ノルマをクリアする家庭学習から、目標に向かって仲間と努力し合う家庭学習へと変わる新たな取り組みでした。漢字相撲においては、学年全員横綱という高みを目指しながら、全員番付掲載の記録は四場所も達成しました。毎月の場所（漢字テスト）のたびに、番付掲示にドキドキし、その結果は努力値であることを確かめ合い、来月場所への意気込みに繋げながら、全三十三場所を頑張りぬきました。今では、十期生に習い、漢字相撲も計算力コンテストも、下の学年が皆、引き継いで取り組んでいます。これもまた、駿小に新たな歴史を残した十期生の誇りとなるでしょう。胸を張って駿小を卒業してほしいと思います。

最後に、このような十期生の活躍の裏には、慈しみ育てられた保護者の皆様をはじめ、多くの方々のお力添えがありました。心より深く感謝申し上げます。

## 最近の大学入試事情

高校 進路指導部主任 小笠原 理

大学入試が変わりつつあります。今回はそんな変化をお伝えしたいと思います。

今年特に変化を感じたのは、ペーパーレス化、すなわち紙の願書の減少です。ひと昔前は、受験シーズンになると入試の願書を書店で買ったりと、取り寄せたりしたものでした。今年は大部分の私立大学がネット出願になりました。国公立大学は今年度についてはまだ紙の願書の方が主流でした。しかし、近い将来、ほとんど全ての大学がネット出願になりそうです。

それから一昔前は志望校を調べるときに、電話帳のような厚い冊子を使って、受験科目を調べたりしていました。(ちなみに昔は電話番号を調べるときに「電話帳」と呼ばれる分厚い冊子で探していたのです。)現在の受験生は、大学の情報はホームページで調べます。大学のホームページの情報が一番早くて正確です。来年度以降の受験方法の変更なども早くわかります。また、大学によつては動画で大学生が大学案内をしてくれたりもします。受験の「多様化」と「長期化」も進んでいます。昔は、推薦入試が少数派でした。ほとんどの受験生が1月にセンター試験を受け、2月に私大を受験し、2月後半に前期試験を受けたものです。しかし、現在、7月のAO入試エントリーから翌年3月入試まで、受験シーズンは9か月の長きに渡ります。私立大学に関しては、既に推薦・AO

入試の方が主流になっており、今後その傾向は一層強くなりそうです。センター試験は残りあと3回になり、その後、入試が変わると誤解している人がいますが、入試はすでに変わりつつあります。いろいろな大学がいろいろな入試を試しています。

ある私立大学医学部では「マルチブルミニインタビュ」と呼ばれる一種のロールプレイのようなことを入試に導入しました。実際に受験してきた生徒によると、「医師のいうことを素直に聞かない患者役」に対して5分間でどう対処するかを見られたそうです。

従来型の小論文や個人面接を課す大学も多いのですが、中にはプレゼンテーションをさせる大学があったり、グループディスカッションをさせる大学があったりと、受験生の「表現力」が問われるようになってきています。

今年、面接や小論文でよく聞かれたことは人工知能(AI)です。高校の小論文コンクールのテーマの一つも「人類はAIと共存できるか?」でした。大学でも大きな関心がもたれているということでしょう。実際、人工知能の発達によつて、生身の人間に問われる能力が変わりつつあります。我々は、計算の速さや暗記量では人工知能に太刀打ちできません。細かい知識を問うような問題は少なくなり、「分析力」や「判断力」を問われる問題が増えつつあります。

だから、僕は受験生に「そんなに何十年も前の過去問をやっても意味ないよ。」と笑って言います。だって、もう入試は変わっているのですから。

## 教育振興寄付金募金のお願い

学園総務部

皆様には、平素より私どもの学校運営に関してご理解とご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

本学園では、昭和五十五年四月の高等学校開校以来、順次、中学校、小学校を併設し、駿台の教育理念である

「愛情教育」に基づく教育活動に取り組んでまいりました。これもひとえに、卒業生及び関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。おかげ様で、グラウンドの人工芝化、ICT機器導入等、学習環境の整備を着々と進めることができました。

更に駿台甲府高等学校は平成三十一年に創立四十周年を迎えます。

この節目に向けて、中学校の塩部キャンパス移転を進め、更なる中高一貫教育の充実に向け、塩部キャンパス全体の学習環境の整備拡充も図ってまいりたく存じます。

つきましては、個人及び法人団体の皆様に需要資金の一部のご支援を賜りたく、寄付金募金につきましてご案内申し上げます。

本寄付金は、税務上の寄付金控除の対象となり、ご協力いただいた場合、個人の方は所得税法にて、法人の方は法人税法による優遇措置を受けることができます。

何卒、趣旨をご理解の上、温かいご支援を賜りますようご協力をお願い申し上げます。

末筆ではございますが、卒業生及び関係者皆様の益々のご活躍とご健勝を

心よりお祈り申し上げます。

○目的

駿台甲府小学校・中学校・高等学校の教育振興寄付金

○使途

駿台甲府小学校・中学校・高等学校の教育活動・学習環境の整備拡充に要する費用に充てさせていただきます。

○募金額

一口 一万円以上(一万円未満のご寄付もありがたくお受けいたします)

○申込方法

お手数ですが本学園総務部までお問い合わせください。ホームページにも掲載しております。(銀行振込他・クレジットカード・コンビニ支払・Pay easy)による決済が可能です)

※税制上の優遇措置について

◇個人の場合・・・「税額控除制度」または「所得控除制度」のどちらかを、ご寄付者ご自身で選択して控除を受けることができます。

◇法人の場合・・・日本私立学校振興・共済事業団を経由する「受配者指定寄付金」として取扱ひ寄付金の全額を損金算入することができます。

〈お問い合わせ先〉

〒400-0026

山梨県甲府市塩部二一八一

学校法人駿台甲府学園 総務部

TEL 055-251-5584

特集 駿小音楽祭

第3回駿小音楽祭開催！

小学校 依田 秀樹

駿小合唱部と吹奏楽部は、二月五日（日）にコラニー文化ホール小ホールにて、第3回駿小音楽祭が催されました。昨年と同様に、中学校から吹奏楽部と合唱部、高校から吹奏楽部と管弦楽部に特別ゲストとして出演していただきました。

第一部は合唱部による演奏。一曲目は『友だちになるために』。この曲はこの音楽祭のために、短い期間でしたが一生懸命練習しました。二曲目は忍たま乱太郎のエンディング曲としても馴染みの『世界がひとつになるまで』。この曲は四月から取り組んでいる今年度一番練習した曲で、自信を持って歌っている子どもたちの様子に、成長を感じました。次は『デイズニーメドレー』。全部で七曲のメドレーで子どもたちも大変だったと思いますが、デイズニーということ、知っている曲も多く、あつという間に歌えるようになりまし。

最後は『心の瞳』。合唱曲の定番の一曲です。これは中学生と合同で歌うことができ、子どもたちにとって良い経験となりました。

第二部は吹奏楽部による演奏。『富士山』と『クラリネットこわしっちゃった』『オーバードザレインボー』『キラキラ星』『ダウ



ンバイザリバーサイド』風になる』を演奏しました。今年度の音楽祭は、今までで一番多い、六曲に挑戦です。テンポのいいノリノリの曲と、ゆったりとした聞かせる曲のメリハリがきちんとできるように練習してきました。また、今年度から楽器を始めた児童は、やつと音階が

吹けるようになったばかりなので、できないところがあつても、自分のできることを精一杯吹けるように、たくさん努力してきました。本番の演奏では、これまでの経験や普段の練習の成果を存分に発揮し、楽しんで演奏することができました。ステージ上でキラキラと輝く姿を見せてくれました。

四年生はホールで歌うのが初めてで、どちらの部活の子たちもリハーサルの時には、「すごい響く！」「なんか上手くなったみたい！」など、ホールでしか感じる事が出来ない響きを楽しんでいる様子でした。自分たちが主役の演奏会を開く経験を、そしてホールで演奏する楽しさを感じてほしいと思いはじめた演奏会ですが、子どもたちはこの演奏会に向けて本当によく頑張りました。素晴らしい演奏会になりました。来場者数も回を重ねるにつれ段々増えてきて、今回は約三百五十名の方にご来場いただきました。この演奏会を通して子どもたちの音楽経験がより豊かなものとなり、これからの音楽の授業や学校生活に生かしてほしいです。



駿小音楽祭に今年も参加しました！

中学校吹奏楽部 顧問 内山 晶夫

去る2月5日（日）にコラニー文化ホールで盛大に行われた第3回駿小音楽祭に、昨年に引き続き駿中吹奏楽部がゲストとして招かれ演奏を行いました。

駿小吹奏楽部のフィナーレ「風になる」の演奏には、中学校から12名の部員が加わり合同演奏を披露、中学校の部では、1曲目に昨年12月に行われたアンサンブルコンテストで、ともに金賞を受賞した木管八重奏、金管打楽器八重奏の2チームのうち、木管八重奏が金賞受賞曲「土蜘蛛伝説」を披露、2、3曲目には、去る1月15日に行われた第1回山梨吹奏楽コンクール新人戦で金賞に加えて県代表にも選ばれた課題曲と自由曲の2曲、「架空の伝説のための前奏曲」と「カウンスルオーク」を、4曲目はデイズニーワールドの雰囲気満載の「デイズニー・アット・ザ・ムービー」を披露し、最後は踊りを加えた「威風堂々ブラスロック」で華やかにフィナーレを締め括りました。

部員が曲紹介を行い、駿高吹奏楽部からは5名の部員が応援として加わり、演奏に厚みと迫力を増してくれました。今回の演奏で駿小音楽祭に花を添えられたこと、首都圏学校交歓演奏会に向けて披露の機会を得られたことなど、我が吹奏楽部にとっても収穫の多い演奏会となりました。

駿小音楽祭に参加して

普通科管弦楽部顧問 上原 雅志

高校の管弦楽部は、駿小音楽祭に二度目の参加をさせていただきました。ありがたうございます。今年の演奏曲は、バロック時代の二曲、一曲目は四つのパートにヴァイオリンのソロが連続する、難しい曲でした。今回は、1年生四人と3年生二人による演奏で、曲が決まってから短い練習期間でしたが、大勢の児童・保護者が聴いて下さる晴れの舞台ですので、皆、真剣に練習を重ねました。

今回、ヴァイオリニストのマヤ・フレザーさんから直前のご指導を頂くことができました。マヤさんはこのほど就任された「やまなし大使」のお仕事で甲府での演奏があり、その翌日、本校管弦楽部にレッスンして下さることになりました。本番目前の水曜日、仕上げの最終段階です。各パートの演奏が美しく調和するように、具体的にご指導を頂き、残り四日間の課題を、全員がしっかりと受け止めました。

音楽祭当日は、夏の全国大会の舞台演奏のDVDを入口で披露し、出場の「記録集」も配布させて頂きました。部員達は狭い楽屋に譜面台を立て、舞台袖に移動する直前まで、互いに何度も演奏の確認をしました。部員として踏む大舞台は初めて、という生徒もいる中、本番では、練習の成果を出し切り、二曲を美しく弾き切りました。駿小生の皆さん、弦楽器の音色はどうでしたか。高校の管弦楽部をよろしくね。おらかな耳で聴いていたくださいたい部分もありましたが、これに、チェロの低音が加わり、より一層美しい調べをお届けできるよう、これからも頑張ります。

※全国大会のDVDの視聴や記録集をご希望の方は、ご遠慮なく顧問上原までご連絡下さい。

### グランプリ受賞記念コンサートを終えて

高校 吹奏楽部 顧問 出澤 郁美

本校吹奏楽部は、「ヤマハ新入部員募集コンテスト二〇一六」において、「グランプリ」を受賞し、トランペット奏者のエリック・ミヤシロ氏と共演出来る機会を頂き、二月四日の「グランプリ受賞記念コンサート」の開催に至るまで、ヤマハの方が本校に何度も出向いて下さり、ご指導頂き、コンサート本番を迎えました。

当日は、共演以外にも、直前のリハールで、エリック氏が直接演奏を指導して下さいたり、演奏会後には交流の場を設けて頂き、気さくに生徒の質問に答えて下さいました。プロの演奏家の生の演奏を聴いたり、共演するだけでなく、合奏のバランスを見て頂いたり、音楽との向き合い方など拝聴できる、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。生徒にとってこの経験はかけがえのないものになったことと思います。

また、今回の演奏会には在校生以外にも、保護者の皆様、他校の高校生やその他沢山の方にご来場賜りました。

お忙しい中、私たちの演奏を聴きに来て下さり、感謝申し上げます。

多くの方に演奏を聴いて頂き、これからの活動の励みとなりました。

これからもエリック氏のよう、楽器を大切に、楽しく演奏していく部活動を目指していきたいと思えます。



### 高校 吹奏楽部 部長 保坂 木音

「おめでとうございます。駿台甲府高校が日本で一番になりました。」この言葉を内藤楽器の方に告げられた時、驚き叫んだことを覚えています。詳しく聞くと新入部員の割合が最も高い学校に送られる賞であり、入賞品として有名なプレイヤーと共演できるということが分かりました。確かに二年生が五人という数に比べて一年生が十五人もいたのが多いな、と思うことはありましたが、まさか日本一であるとは思っていませんでした。

日程を二月四日になると決めましたが、新人戦の半月後であったり、ソロコンテストや駿小音楽祭の前日であることから、本番までの曲を仕上げられるのか不安でした。しかしヤマハの方が何度も「SMOKE ON THE WATER」と「ロッキーのテーマ」の指導をして下さったり、曲を変更したりして何とか間に合わせることが出来ました。

こうして迎えた当日。リハール時に初めてエリックさんと一緒に演奏しました。エリックさんのトランペットから導き出される音は大きいのに繊細で、ずっと聴いていたと思う綺麗な音でした。プロの方の魅力的な音に感動しました。

今回のステージを通して音楽を共に奏でることの素晴らしさはもちろんですが、自分達の甘さに気づくこともできました。それを今後の部活に活かし、「一期一音」というモットーに、もう一度立ち返り、練習に励んでいきたいです。また、本番にはヤマハの方々、沢山の先生方や見に来て下さった方々のご協力があったのもでした。本当にありがとうございます。

### 埋蔵文化財調査報告

高校 地歴公民科 新田 真也

本学園では、平成三十年度内に中学校を甲府市の今井キャンパスから、高校がある塩部キャンパスに移転する事業を進めており、その一環として、中学校建設予定地の発掘調査が昨年十月より行われています。



塩部キャンパス周辺は、過去の発掘調査事例から、縄文時代より集落が形成されていたことが明らかにされています。高校の向かいにある、甲府工業敷地内にて行われた発掘調査（現在、塩部遺跡と呼ばれています）で出土した「ウマの歯」は、五世紀以前に遡るとされ、全国的にも極めて貴重な出土例でした。そのため、今回の発掘調査においても遺構や遺物の出土が想定されていました。

昨年十月から十二月にかけて行われた一期第一区域の調査では、



古墳時代の河川跡と集落の遺構が確認されました。中でも、河川跡からは古墳時代の木製品が出土し、同時期の木製品の出土例が少ない本県においては、貴重な事例となりそうです。

また、今年一月から行われている二期第二区域では、古墳時代の堅穴住居跡が複数確認されるとともに、数多くの土器や土器片が出土し、先に紹介した塩部遺跡と一続きの遺跡である可能性が指摘されています。

現在、地歴公民科では、貴重な発掘事例であることを踏まえ、高校一年生と「日本史」を学ぶ高校二年生の文系クラスを対象に、随時、「発掘現場見学」を行っております。一月十六日に行われた見学会では、発掘担当者より、遺跡や遺物の説明を受けたのち、実際の遺構面に立ち、発掘状況や出土品の見学を行いました。非常に寒い中での見学会でしたが、現場を見学する生徒たちの目が輝いていたのが印象的でした。



来年度以降は、調査区域が広がるため、生徒による主体的な学習の一環として、発掘調査体験なども企画をしていきたいと思っております。